

経営比較分析表（平成30年度決算）

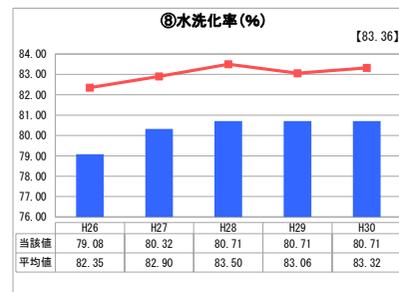
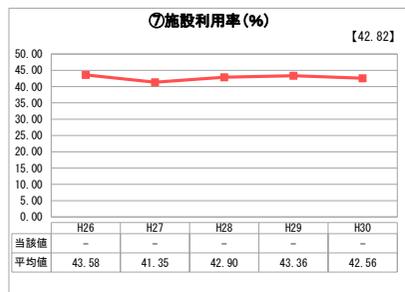
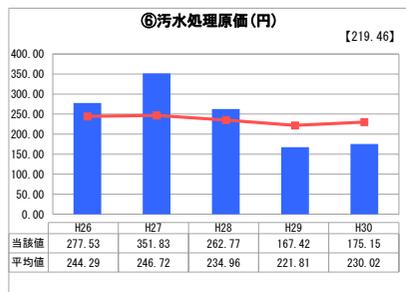
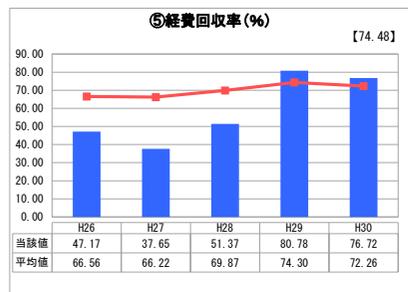
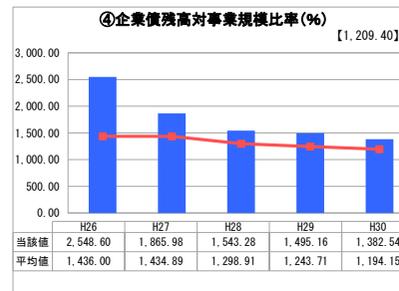
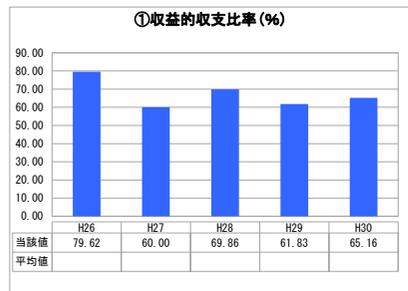
栃木県 野木町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	7.91	79.29	2,478

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,633	30.26	847.09
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,027	0.54	3,753.70

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本町の特定環境保全下水道事業の経営状況
 ①収益的収支比率
 過去5年をみると減少傾向にある。使用料徴収等の自己財源のみでの運営ができておらず赤字状態が続いている。一般会計に依存をしている現状がある。

④企業債残高対事業規模比率
 年々減少している。野木・野渡地区の整備はほぼ完了しており、整備のための投資額は減少傾向になる。維持管理の時代に入ると思われるため、維持管理費の確保が急務である。

⑤経費回収率
 過去5年をみると以前よりは改善されている。類似団体や全国平均と比べても少しだが高い傾向にある。しかし100%に満たないため、使用料で回収すべき経費が賅っていない状態である。適正な料金収入や汚水処理費等の削減及び有収率の向上が必要である。

⑧水洗化率
 徐々に増加傾向に推移はしているものの、類似団体や全国平均からするとやや少ない。接続の推進を進めていく。

2. 老朽化の状況について

本町の下水道施設や管渠は比較的新しい。今後は施設の老朽化や漏水による修繕が増えるため、耐用年数を考慮した施設の計画的な修繕や更新を実施していくことが必要である。

全体総括

管渠整備はほぼ完了しており、水洗化率の向上も処理区域内人口が少ないために大きな収益の向上は望めない。経費に関しても、当町は流域下水道での処理のため汚水処理費は県への負担金によるものであり、町単独での改善は難しいのが現状である。令和2年度より一般会計に移行することで、資産状況や経営状況を的確に把握して経営戦略の策定を行い、経営改善を図っていきたい。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。